

大学入学時における読解力と「日本語運用能力テスト」との関係に関する一考察(2)

著者名(日)	上村和美・藤木 清
雑誌名	研究紀要
巻	13
ページ	51-56
発行年	2012-03-31
URL	http://id.nii.ac.jp/1084/00000343/

大学入学時における読解力と「日本語運用能力テスト」 との関係に関する一考察（2）

A consideration on relation between Reading literacy and
“KUIS Japanese Proficiency Test” at college administration (2)

上 村 和 美*
Kazumi UEMURA

藤 木 清*
Kiyoshi FUJIKI

抄録

今日、母語としての日本語運用能力の向上が求められている。本学においても「日本語運用能力テスト」が在学生に対して実施されている。本稿では、2011年度入学生に対するウォーミングアップ学習で実施されている2つのプログラム「日本語運用能力テスト」と「ゼミナール入門」から得られた結果について分析・検証を行った。分析にあたっては、特に、内容の読解と表現の形式の2つの観点に分けて行った。その結果、内容の読解と日本語運用能力との間に若干の関連性が認められた。

Abstract

The improvement of Japanese proficiency as the first language was requested. At the university which served as the subject of this research, the second and third year students have taken the university's "Japanese Proficiency Test." The program is offered to those who will be sure to enter the school in April. The two programs are "Japanese Proficiency Test," and "Introduction to Seminar." They were analyzed using two viewpoints: (1) the content of reading comprehension; and (2) the form of expressions in the reading comprehension. The results show some association between Japanese proficiency and comprehension of content.

1. はじめに

本稿は関西国際大学研究紀要第12号（平成23年3月発行）で発表した「大学入学時における読解力と『日本語運用能力テスト』との関係に関する一考察」で得られた結果について、平成23年度入学生においても同様の結果が得られるのかを検証したものである。したがって、本学におけるウォーミングアップ学習を含む入学前教育の内容等の説明については、既に前稿において述べているため、本稿では省略する。詳細については前稿を参照されたい。

* 関西国際大学人間科学部

前稿では平成21～22年度入学生を対象に実施されたウォーミングアップ学習の中のプログラムの一つである「ゼミナール入門」で使用された教材から得られた結果と、同じくウォーミングアップ学習の中で実施された「日本語運用能力テスト」の結果の関連についての分析を行った。分析の結果、次のような傾向が得られた。

- ・表現の形式の正誤による文章量の差異はほとんど見られない。
- ・内容の読解が正しいグループの方が、文章量が多くなる傾向がある。
- ・内容の読解が正しいグループの中では、表現の形式が正しくない者は比較的長い文章を書く傾向が見られる。
- ・文章量と日本語運用能力については関連性が認められない。
- ・読解力と日本語運用能力は若干の関連性が認められる。

2. 読解力に関する分析結果

2.1 Preparation Sheet の2nd READING の解答について

本節では、本学2011年度入学生のうち、入学前教育ウォーミングアップ学習のゼミナール入門（『続ける力』のリーディング）を受講した学生を対象に、Preparation Sheet の2nd READING の解答データを用いて、読解力に関する分析を行う。ここでは、前稿の2009年度生および2010年度生のデータと比較するため、同じ指標を用いる。

設問は、印象に残った文（または文章）とその理由を聞いており、内容に関する読解（以下、本稿では「内容の読解」とよぶ。）、その解答の表現（以下、本稿では「表現の形式」とよぶ。）、並びに文章量の3つの指標を用いる。

この設問に対する解答は、続けるための方略に関する感想や続かなかった経験などが語られるべきであると考えられる。そこで、内容の読解を見る手がかりとしては、課題図書「続ける力」のテーマである「続く」というキーワードが解答の中に盛り込まれているかどうかをみる。

表現の形式については、印象に残った理由を述べるための正しい形式で解答できているかをポイントとしてみる。なお、文章量は、この解答の字数により測定する。

各指標の基本的な性質は、以下の通りである。

文章量の分布は図2-1の通りである。概ね120字を中心とした bell shape であり、前回のデータと大きな差異は見られない。表2-1は未記入者を除外したデータで基本統計量を比較したものである。平均値や分散値について有意差は見られなかった。

次に、表現の形式と内容の読解の正誤について比較する。2011生の表現の形式の正答割合は2009-10生よりも若干上回り半数まで割合が増えているが、大きな有意差はない。一方、内容の読解の正答割合は72%から66%に下がっており、若干の有意差 ($p<.08$) が見られた。また、2011年度生について、内容の読解と表現の形式の正誤についてクロス集計した結果が表2-2であるが、関連性は見られない。

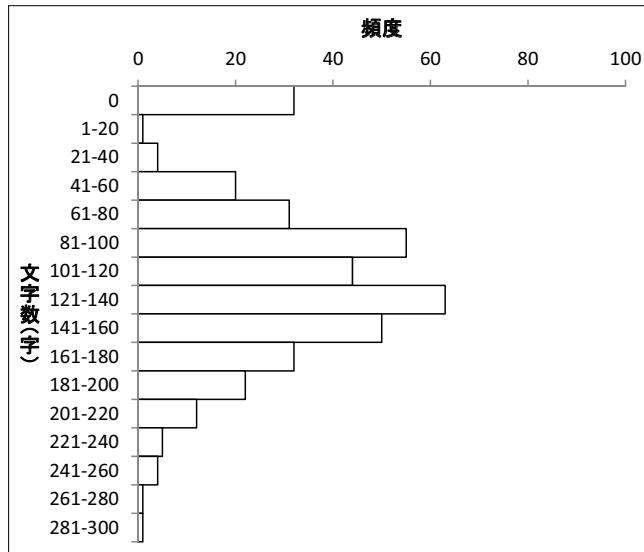


図 2-1 解答の文章量

表 2-1 字数の基本統計量

	2009-10生	2011生
平均値	126.6	127.5
中央値	121.0	125.5
最頻値	113.0	99.0
標準偏差	47.6	46.2
不偏分散値	2267.8	2133.0
標本数	501	344

※未記入を除外

表 2-2 内容の読解及び表現の形式の正誤率（％）

[N=344]		内容の読解		
		○	×	総計
表現の形式	○	32.8	16.9	49.7
	×	33.4	16.9	50.3
	総計	66.3	33.7	100.0

2.2 読解力と文章量との関係

次に、読解力と文章量の関係を分析する。2009－10年度生を対象にした分析では、次のような特徴がみられた。

- ・表現の形式の正誤による文章量の有意差はない。
- ・内容の読解が正しいグループの方が、文章量が多くなる傾向がある。
- ・内容の読解が正しいグループの中では、表現の形式が正しくない者は比較的長い文章を書く傾向が見られる。

これらの諸点について、2011年度生と比較してみる。

表2－3は、内容の読解と表現の形式の正誤別の文章量の平均値である。

まず、表現の形式と文章量について分析する。表現の形式が正しくない解答の方が、文章量が多い傾向がみられる ($p<.05$)。2009－10生においても有意差はなかったものの、表現の形式が正しくない解答の方が、文章量が若干多かった。この傾向は、内容の読解が正しい解答の中で顕著になる ($p<.06$)。この設問では、印象に残った文とその理由を答えるものであったが、表現の正しくない解答の傾向としては感想文のような書き方が多く見られ、該当箇所の指摘とその理由を述べるという論理だった形式になっていないものが散見された。

次に、内容の読解と文章量について分析する。内容の読解が正しい解答の方が、文章量が多くなる傾向が顕著にみられる ($p<.007$)。この結果は、2009－10生での分析と同じ結果である。この結果について、解答を点検したところ、正しく内容を理解していないと見られる解答は総じて文章量が少なめであり、印象に残った箇所の指摘はあるもののその理由が書かれていないものが多々あった。さらに、表現の形式が正しくない解答の中では、この傾向がさらに顕著に表れている ($p<.027$)。

表2－3 内容の読解及び表現の形式の正誤と文章量の関係（字）

		読解の内容		
		○	×	総計
表現の形式	○	126.4	114.9	122.5
	×	138.1	121.4	132.5
	総計	132.3	118.1	127.5

2.3 読解力と文章力との関係

今回の分析にあたっては、文章表記について5点満点で点数化を行った。評価のポイントは以下のとおりである。

- ・誤字・脱字がない：2点
- ・文体の混用、話し言葉が用いられていない：2点
- ・極端に長い文（1文＝40字程度が目安）が用いられていない：1点

以上のポイントで採点した結果について、内容の読解及び表現の形式との正誤との関連でクロス集計したところ、いずれのケースにおいても4点が最も多く、次いで減点されないケースも多く見られ、関係性は見られなかった（表2－4、2－5）。

表 2－4 内容の読解と表記点との関係（点）

		表記点					
		1	2	3	4	5	総計
内容の読解	○	0.44	4.39	21.05	46.93	27.19	100.00
	×	0.00	1.72	21.55	51.72	25.00	100.00
	総計	0.29	3.49	21.22	48.55	26.45	100.00

表 2－5 形式と表記点との読解（点）

		表記点					
		1	2	3	4	5	総計
表現の形式	○	0.00	4.00	22.22	48.44	25.33	100.00
	×	0.84	2.52	19.33	48.74	28.57	100.00
	総計	0.29	3.49	21.22	48.55	26.45	100.00

2.4 読解と日本語運用能力との関係

続いて、内容の読解及び表現の形式と日本語運用能力テストの得点との関係について分析する。日本語運用能力テストの内容については、前稿（上村・藤木（2011））の通りである。また、前稿において分析したところ、次のような結果となった。

- ・文章量と日本語運用能力については関連性が認められない。
- ・読解力と日本語運用能力は若干の関連性が認められる。

これらの諸点が、2011年度生のデータについても同様の傾向にあるのかを検証する。

表 2－6 は、表現の形式と内容の読解の正誤別に、日本語運用能力テストの平均点を算出したものである。その結果、表現の形式の正誤による得点の大きな差異は見られなかった（ $p<.182$ ）が、内容の読解の正誤による得点差は存在した（ $p<.009$ ）。また、その傾向は表現の形式が正しいグループ内においてより顕著であった（ $p<.012$ ）。

これらの結果は、2009－10生のデータと同じ傾向である。すなわち、読解力と日本語運用能力との間には、さほど大きな得点差としては現れていないものの、若干の関連性が認められた。

表 2－6 内容の読解及び表現の形式の正誤と日本語運用能力テストとの関係（点）

		内容の読解		
		○	×	総計
表現の形式	○	18.7	16.8	18.0
	×	17.7	16.8	17.4
	総計	18.2	16.8	17.7

3. おわりに

本稿では、読解力を中心に、文章量や日本語運用能力との関係を2011年度生のデータで見えた。結果を整理すると次のようになる。

- ・内容の読解が正しいグループの方が、文章量が多くなる傾向があり、また、表現の形式が正しくないグループの方が、文章量が多くなる傾向がある。すなわち、内容の読解が正しく表現の形式が正しくないグループが最も文章量が多くなっている。
- ・内容の読解が正しいグループの方が、日本語運用能力テストの得点がよい傾向があり、その特徴は表現の形式が正しいグループ内で顕著である。

これらの傾向は、2009－10年度生の傾向と概ね同じであった。

読解力と日本語運用能力の間には相関があると従来から考えられており、今後は、それら2つの能力の関連性についてさらに詳細に考察を深めていきたいと考えている。

謝辞

本稿は平成19～21年度・関西国際大学教育総合研究所プロジェクト「大学初年次における読解力向上のためのカリキュラムおよび教材開発に関する実証的研究」および平成22年度科学研究費補助金基盤研究C（課題番号22530840）「大学初年次でのクリティカル・リーディング力育成カリキュラムと教材開発に関する研究」による研究成果の一部である。

【参考文献】

- 1) 中條和光：「4 文章の理解」，針生悦子編：『言語心理学』朝倉書店 2006 56-76頁
- 2) 近松暢子：「第五章 外国語としての日本語の読み」，畑佐由紀子編：『第二言語習得研究への招待』くろしお出版 2003 67-85頁
- 3) 学習技術研究会：『知へのステッパー－大学生からのスタディ・スキルズー』くろしお出版 2002（改訂2006, 2011）.
- 4) 岸学：「第9章 説明文・マニュアルの理解と表現」，楠見孝編：『現代の認知心理学3 思考と言語』北大路書房 2010 217-244頁
- 5) 国際交流基金著：『国際交流基金 日本語教授法シリーズ7 読むことを教える』ひつじ書房 2006.
- 6) 国立教育政策研究所：『生きるための知識と技能2－OECD生徒の学習到達度調査（PISA）2003年調査 国際結果報告書』ぎょうせい 2004.
- 7) 苧阪真理子：『ワーキングメモリ』新曜社 2002
- 8) 苧阪直行：『読み－脳と心の情報処理』朝倉書店 1998
- 9) 上村和美：「本の読み方」『AERA Mook 勉強のやり方がわかる。』，2004 36-41頁
- 10) 上村和美，西川真理子，横川博一，堀井祐介：「大学初年次における読解力向上のための基礎的研究」『関西国際大学研究紀要』，第10号 135-147頁
- 11) 上村和美，藤木清：「大学入学時における読解力と「日本語運用能力テスト」との関係に関する一考察」『関西国際大学紀要』，第12号 89-99頁

PISA の読解力の定義

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gakuryoku/siryo/05122201/001.htm